

韓国の歴史を辿る旅

(その7)

(S44) 浅野 保夫

3 日目： 扶余（その1） - 百済滅亡および渡来人と東大寺大仏

歴史を辿る旅3日目は慶州から浦項市の虎尾串迎日公園まで片道 50 kmを車で往復したのち、新慶州駅で韓国高速鉄道（KTX）に乗って韓国第5の都市大田に向かいました。鄭先生のお話ではKTXについては日本の新幹線の導入も有力であったが技術供与には後ろ向きであったので入札には参加できず、結局フランスのTGVが導入されたとのこと。広軌ではなく標準軌なので席は1列4席、通路も心持ち狭いが料金も日本の新幹線の半額程度であり、それなりに快適でした。韓国の鉄道は改札も車内検札もなく、違反が見つかったら高額の罰金を取られるというヨーロッパのシステムです。

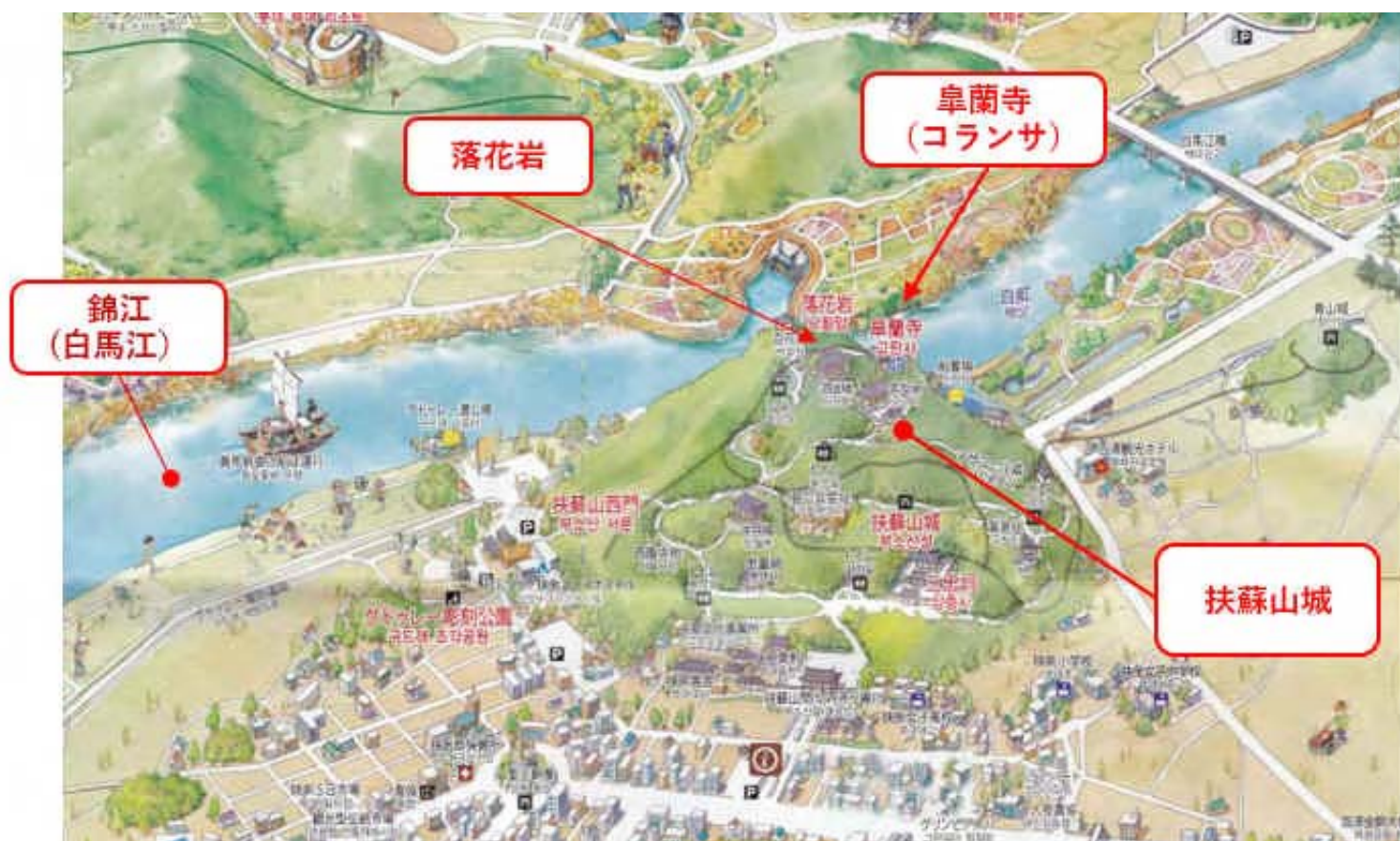
大田からは韓国鉄道公社（KORAIL）のムグンファ（むくげ）号で白村江の比定地の一つである江景に向かいました。本日我々が辿る経路は百済滅亡までの時



第1図 百済関連図

系列とは逆に、まず白村江の比定地の一つ、江景を見てから北行し百済最後の王城の地、扶余に入りました。白村江でのドラマは前号の藤川さん執筆の記事を参照下さい。

扶余について司馬遼太郎は「韓のくに紀行」の中でこう書いています。" 慶州には新羅遺跡は無数に残っています。古墳も出土品も仏国寺の石造美術もふんだんに残っていますが、この百済の国都扶余にはなにが残っていますか」と李夕湖先生は私に反問した。そしてみずから答えた。「何もない。何も残っていない。出てくるのは瓦のかけらだけです。なにもかも唐と新羅の連合軍がやきはらい、碎き尽くしたのです。出土品だってそうです。慶州の百分の一です。・・・百済は悲しい」"。確かに扶余には538年に都をここに移し、660年に唐・新羅連合軍によって滅亡するまでの122年にわたった百済の王城の残滓は一つの石塔以外に何もありませんでした。この石塔については次回の浅井さんのレポートで紹介があると思います。



第2図 扶余主要部

扶余の市街地の北側・海拔106mの扶蘇山に扶余（当時は泗泚）を守るべき扶蘇山城がありました。落城当時、唐と新羅連合軍の徹底的な破壊を目の当たりにして百済の宮女3000人は扶蘇山城の断崖から白馬江に身を投げて貞操を守ったと言い伝えられています*。この落花岩の直下に阜蘭寺（コランサ）という小さなお寺があります。百済時代創建の尼寺と言われていますが、この寺の裏の壁画に描かれているのが第3図です。



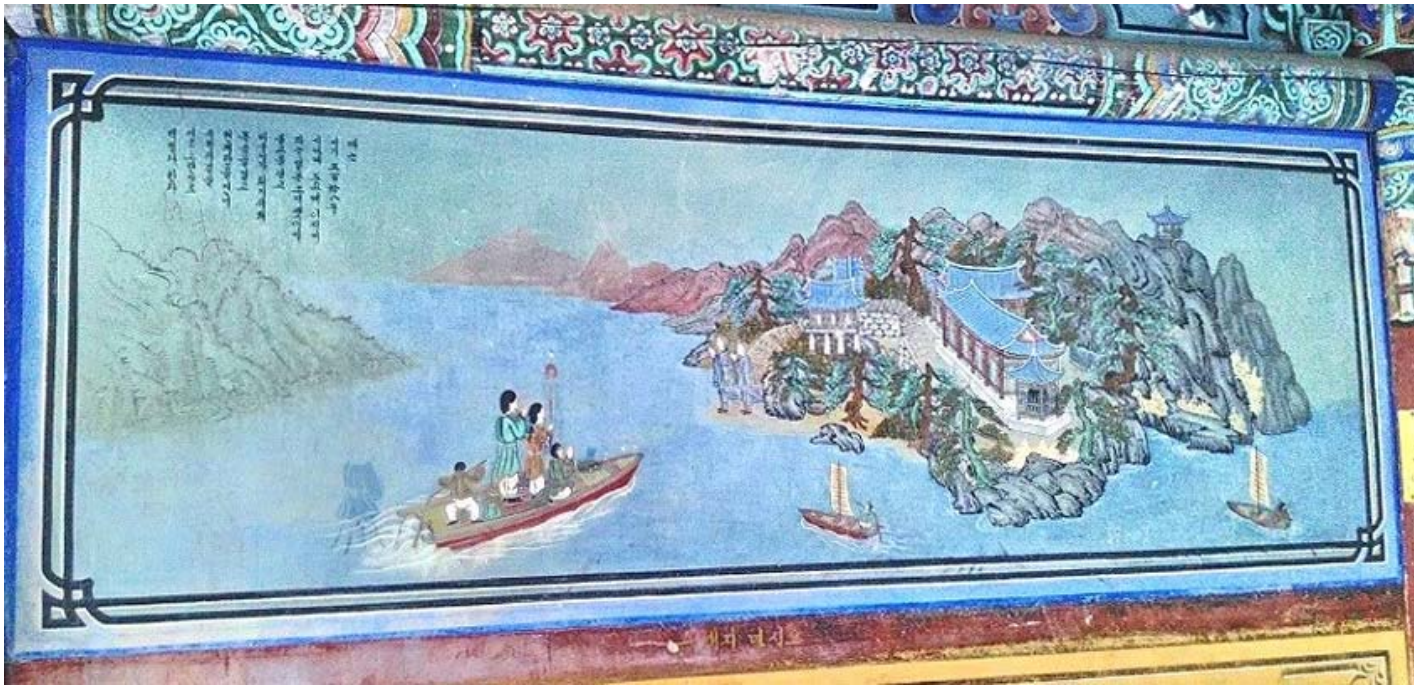
第3図 百済宮女たちの最後*

この断崖は後に " 落花岩 " と名付けられました。沖縄戦での喜屋武岬からの女学生の集団自決が思い出されます。異なる民族の軍隊に圧倒されると同様な恐怖が生ずるのでしょうか？

第3図の壁画の並びに描かれているのが第4図です。奈良時代に日本から来た尼僧たちがこの寺に留学したという説明が漢字で書かれていました。この尼僧たちは善信尼、恵善尼、禪蔵尼といい6世紀後半の日本最初の尼僧たちです。3人とも渡来系氏族の出で、善信尼の父は司馬達等。彼女は仏師・鞍作止利の叔母にあたります。彼女たちは崇仏派・蘇我馬子と廃仏派・物部守屋が激しく対立する中で、585年に物部守屋を急先鋒とする廃仏派により法衣を剥ぎ取られて全裸にされ、海石榴市（つばいち、奈良県桜井市）の駅舎で衆目の中で鞭打ちの刑に処されるという屈辱を受けました。この事件をきっかけにして翌々年の587年に蘇我馬子は聖徳太子を味方に得て物部守屋を滅ぼしたことは日本歴史上の重大事件でした。

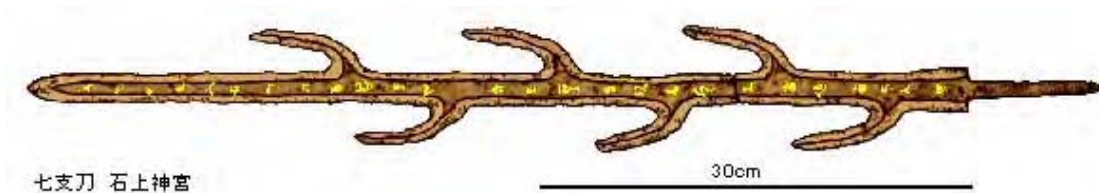
その翌年の588年に彼女たちは戒律を学ぶため百済へ渡り、この阜蘭寺で修行をしたと伝えられています。このとき善信尼の推定年齢は14才。恵善尼や禪蔵尼は2～4才年下でしょうか？明治4年に津田梅子（8才）や山川捨松（10才）たち5人が太平洋を越えてアメリカに留学したことの先駆者がすでに1300年前にいたわけです。大和撫子にはこのころから瞠目すべき勁（つよ）さがあったようです。

百済の始祖は高句麗の始祖王 " 朱蒙（じゅもん） " の次男・温祚王（おんそおう）とされています。温祚は漢江南岸の漢城（現在のソウル近郊）に都を置き、国を



第4図 日本人三人の尼僧の留学

起こしました。これが紀元前18年のことだと伝えられていますが、中国の史料で百済という国号が明らかになるのは346年、13代目の近肖古王からというのが定説になっています。この王の太子、のちの近仇首（きんきゅうしゅ）王が作らせたという七支刀が物部氏の武器蔵であった天理の石上神宮に保管されているのも興味深いところです。



第5図 国宝：七支刀（石上神宮所蔵）

漢城時代の百済は拡大を続ける北方の大国・高句麗との死闘を繰り返し、一時は平壤を攻めて高句麗の王を戦死させたこともありましたが、その後は広開土王（好太王）などのために押され気味となり、第21代蓋鹵（こうろ）王はついに475年に都・漢城を落とされ戦死しました。

王都漢城を失った百済は都を熊津（ゆうしん：現在の忠清南道 公州市）に遷しましたが、百済は昔日の威光の回復はなかなか困難な状況が続きました。それでも第25代の武寧王の時代にかけて一応の回復を見せました。桓武天皇の生母と言われている「高野新笠」はこの武寧王の末裔であり、百済滅亡後日本に渡ってきた王族の子孫との有力な説があります。

6世紀に入ると、新羅が大きく国力を伸張させ、高句麗南部へ領土を拡大させま

した。このような情勢の中で武寧王の子・聖明王は538年都を熊津から更にここ泗泚（しひ：現在の扶余）に遷しました。この聖明王はこの年に日本に仏教を伝えた（仏教公伝）ことで知られていますが、それは高句麗による圧力に対抗するため倭朝廷に援護を求めるための一環でもあったようです。

移り住んだ泗泚(扶余)は、大河・白馬江(錦江)と白馬江に面する扶蘇山という強力な自然の防壁に恵まれ、また作物に恵まれた豊かな平野であったことから、百済は政治的・軍事的・文化的にもっとも栄える全盛期「泗泚時代」を迎えたようです。扶蘇山城は百済が唐と新羅の連合軍に滅ぼされるまでの122年間、王都・泗泚の繁栄を支えた軍事的象徴でした。

百済滅亡時の王であった31代義慈王は641年に王位に就いた早々は善政を進め、臣民から慕われ隣国新羅に対しても攻勢を保っていましたが、新羅も金庾信將軍の指揮のもと劣勢を盛り返し一進一退の戦いを続けていました。このころ新羅は王統に連なる金春秋、のちの武烈王がこの危機打開の方策として自身で高句麗や日本に赴き、果ては唐の長安にも赴いて太宗に援助を要請しています。この時代、王位を約束された王族が自ら高句麗、日本、唐と渡り歩いて祖国生き残りのための外交を行っていることに驚きます。これに対する百済の義慈王は新羅との戦闘も思うようにゆかず、徐々に酒色におぼれてゆき政治をおろそかにしていったようです。655年には百済は高句麗と連合して新羅に進攻しましたが、前年に即位していた金春秋は唐に救援を要請し、唐はこれに応じて蘇定方將軍を派遣して高句麗を攻め、この戦いに勝利しています。660年には唐は百済討伐の出兵を行い、唐の蘇定方將軍と新羅の金庾信將軍が協力して百済の王宮・泗泚城に攻め込み、百済の命運はとうとう660年に尽きてしまいました。

その頃、義慈王の子のうち豊璋と善光の兄弟が日本に滞在していました。百済の將軍・鬼室福信たちは百済復興を試み、豊璋は中大兄皇子の支援を得て百済に帰り、倭の応援を得て唐と新羅の連合軍に挑みましたが663年にあえなく白村江にて大敗し、百済は歴史の中に消えることとなった事は前号藤川さんの記事に詳述されています。

扶余は、百済の歴史に関わりの深い周辺の遺跡と共に2015年に「百済歴史遺跡地区」としてユネスコ世界文化遺産にも指定されています。

白村江の大敗にも拘わらず、日本は百済の王族、遺臣、知識人達を大量に日本に連れて帰りました。先日亡くなられた上田正昭先生は半島をはじめとする東北アジアの人々が日本列島に渡来してきたピークが4段階あるとしています。この時がその最後の大波となりました。これらの人たちは時の朝廷から大変に優遇されています。それというのも彼らが日本にとって新しい技術や知識を持っていた

からに他なりません。このことはあの巨大な東大寺盧舎那仏建立にまつわる事実が如実に示しています。

この大仏は743年に聖武天皇の詔により造立がスタートしましたが、これを主宰した良弁および庶民からの資金を集めるため諸国を勧進して廻った行基の二人とも百済系の渡来人の子孫でした。更にこの前例のない巨大な仏像造立を技術面で指揮した造東大寺司次官（造仏長官）の国中公麻呂（くになかのきみまろ）もやはり百済系の渡来人の子孫です。

大仏造立は745年に開始され、747年に鑄造を開始し749年に終了しました。その後、鑄加（いくわえ）、鑄浚（いさらい）という、鑄造後の表面の仕上げ、螺髪を取り付け等に3年かかり、やっと752年に開眼供養を迎えました。造立の詔より10年かかった大事業でした。



第6図 国宝：東大寺盧舎那仏座像

この大仏造立についてはもう一つの物語があります。この大仏は開眼供養後鍍金されますが、当時の日本ではまだ金が採掘されていません。必要があれば中国から運んでいましたが大仏に鍍金出来るほどの大量の金を大陸から運ぶわけにはいかず、全国に黄金探索の指令が出されました。これを発見したのも白村江の敗北後日本に帰化した百済の王族の子孫の「百済王 敬福」（注：百済王と言う氏は持統朝から下賜された）という人であったとのことです。日本最初の産金地、"小田郡の金山"は現在の宮城県遠田郡涌谷町一帯とされています。

東京都鍍金工業組合の「奈良の大仏と表面処理」によれば、鍍金に用いた材料について延暦僧録に「塗練金4,187両1分4銖、為減金2万5,134両2分銖、右具奉「塗御体如件」とあり、これは金4,187両を5倍の水銀に溶かし、アマルガムとしたもの2万5,134両を仏体に塗ったということのようです。鍍金後表面を約350度に加熱して水銀を飛ばす必要があり、発生した水銀の蒸気は大仏殿内に充満し 塗金の作業者に不思議な病気がはやりだし、若草山の草木が枯れてし

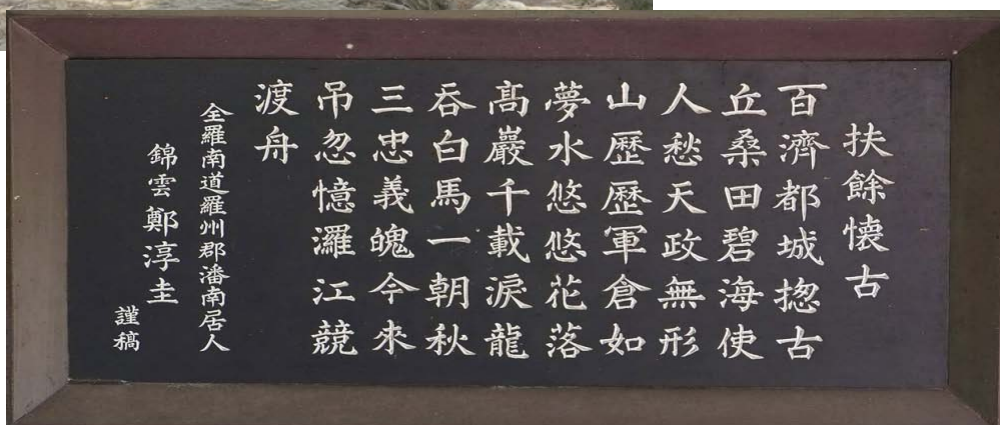
まったそうです。まさに水銀中毒が起こっていたわけですが、この原因が蒸発する水銀にあるとの真相をつきとめたのもあの国中公麻呂であり、良弁僧上とともにこの対策・予防に苦心したようです。鍍金は太公開眼後の752年に開始され、5年の歳月を費やしています。いかに塗金が大仕事であったかが窺い知られます。

我が国には人種・民族にこだわらず、このように優れた人・優れた技術・優れた知識を大切にし、遇してきたDNAが昔から脈々と息づいているようです。本年5月1日の"天声人語"は有田焼の歴史について随想し、次の言葉で結んでいました。

陶芸に限らず、文字や律令、宗教まで大陸や半島から教わっては磨き上げる。それが日本の歩んだ道である。文化や人種の違いをあげつらい、なにが日本固有で、どれが韓国由来か、まくし立てることにどんな意味があるのだろう。14代目の焼いた皿や瓶に触れ、4世紀にわたる融合の歳月を手のひらで受けとめた。

(つづく)

★



左党

檜原 勇多賀 (37年卒)

酒好きな人、飲ん兵衛のことを「左党」とか「左利き」という。

これは、その昔武士は酒を飲むときでもどんなときでも、不意の敵に備えて刀を抜けるようにしておくのが"武士の習い"であった。

そのためには、右手を空けておく必要があった。

武士は左手に盃を持って酒を呑むことから、飲ん兵衛のことを「左党」と呼ぶようになった。

ところで、武士が信頼の置ける相手と差し向かいで酒を飲むとき、左腰から外した刀は自分の右側に置く。

これは、直ぐには刀を抜けないので、相手を信頼していることの証である。

「左利き」の由来には、もう一つの説が有る。

江戸時代、大工や石工は右手に槌、左手にノミを持つことから、右手の事を槌手、左手の事をノミ手と呼んでいた。



そこから、ノミ手が飲み手にゴロ合わせされ、飲むことが得意の人を「左利き」というようになったというもの。

宴席で徳利を左手に持って勺をしている人がいるが、これはマナー違反である。徳利は必ず右手に持って勺をしなければならない。

平成 28 年 京機会中国四国支部 春の行事のご報告

中国四国支部では、去る平成 28 年 5 月 14 日に恒例の春の行事を開催致しました。以下、その概要につきご報告いたします。

1. コベルコ建機（株）工場見学

コベルコ建機株式会社は 1999 年に、(株)神戸製鋼所の建機部門、油谷重工(株)、神鋼コベルコ建機(株)が合併して発足しました。その歴史は古く、1930 年に神戸製鋼所が完成させた国産建設機械 1 号機となる電気ショベルにまで遡ることができます。その後技術は脈々と引き継がれ、現在に至りますが、今年 2016 年 4 月にはコベルコ建機とコベルコクレーンの経営統合もあり、ショベルとクレーンの製造ノウハウを持ち寄ることでシナジーを追求し、新しい価値を世界中のお客様へお届けしています。

今回の工場見学は、京機会会員のコベルコ建機広島事業所長・常務執行役員平山様（1978 M 卒）のご協力で実現しました。当日は土曜日でしたが、幸いにも 5 月連休後の工場稼働日ということで中国四国支部の行事として見学をさせて頂くことができました。

見学させて頂いた五日市工場は、広島市の西部、佐伯区五日市に位置し、2012 年に稼働を開始した最新工場です。敷地面積は約 10 万㎡、ショベルカーの生産能力は中型 8000 台 / 年、大型 500 台 / 年とのことで、ここで生産された製品は、隣接している五日市港から世界中に輸出されています。



当日はフレームの溶接加工から塗装、組み立て、艀装・検査までの工程を見学させて頂きました。最新工場ということで、とてもクリーンな環境の中で皆さん生き生きと仕事をされている姿が印象的でした。中でも特に印象深かったのが、工場で働いている皆さんが我々見学者ににこやかに挨拶してくれたことで、これもおもてなしの究極の形のひとつと感じた次第です。また、工場の床は汚れが分かるように敢えて白い塗装を施しているとのことで、このことにも感心させられました。

作られている製品は中型・大型のショベルカーですが、製品の大きさからその迫力は圧巻で、今回幹事会社として多くの参加者があったマツダ（株）のメンバーからも「車とはスケールが全然違う」といった感想が多く聞かれました。一方、スケールの違いこそあれ、「モノづくり」という点においては多くの共通項も見つかったようで、色々と勉強になる見学イベントでした。

2. 支部総会・異業種交流会・懇親会

工場見学を終了した後、ホテル JAL City 広島にて、定例の支部総会、異業種交流会、懇親会を行ないました。

支部総会では「2015 年度決算及び 2016 年度予算」「2016 年度支部役員の改選」について承認を頂き、稲本支部長のリードで中国四国支部の活動の目的を確認しました。その後、4 回生の松本太斗さんから京都大学フォーミュラプロジェクト KART の紹介を挟んで、異業種交流会を開催しました。



交流会のテーマは、「モデルベース開発による車両開発プロセスの効率化」で、1988年卒の矢野康秀さん（マツダ（株））が講演を行ないました。マツダが近年多くの分野に適用している開発手法であるモデルベース開発が、バーチャルの世界と現実の世界をいかにうまく繋いで効率的な開発を行なっているかということ、エンジンの燃焼制御などを例に分かりやすく説明してくれました。

その後は恒例の懇親会となり、旧交を温めたり、異業種の方々との交流を深めたりして、最後は琵琶湖周航の歌を合唱して終了しました。

中国四国支部の活動としては年に一度の大きなイベントですが、無事に終了させることができました。ご参加、ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

日時：平成28年5月21日(土)13時～17時(テニス)、17時半～19時半(懇親会)

会場：(テニス) 島津製作所三条工場内テニスコート (屋内2面、屋外1面)

(懇親会) イタリアン 『クアトロ 四条烏丸店』

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町662 tel. 075-254-3888

次第：Part 1 紅白対抗ダブルス戦

Part 2 決勝トーナメント・親睦試合

参加者：15名

テニス愛好家の皆さんに、プレーを通じて交流の機会を増やす目的で新春からテニスカフェを立ち上げました。第二弾は全日本女子実業団トップの島津製作所テニス部様の協力を得て、三条工場敷地内のコートを使用させていただきました。今後も、関西一円(兵庫・



島津谷垣テニス部長((S56卒)挨拶



京都・大阪他)でこれまでテニスを楽しんでこられた方々はもちろん、関西出張中の方、大学研究室の方や学生さんまで、テニスレベルにかかわらずに、参加していただこうと年2回程度開催しようと考えております。

実施結果：晴天にも恵まれ、現職の教職員の皆さんを含め、初参加8名を含む80歳代 から30歳代まで15人(女性4名、男性8名)が集まりました。怪我もなく、楽しくかつ元気はつらつなプレーを通じて、新しい出逢いを楽しみまし



Part 1 戦績

紅組（松久、池上、成瀬(F)、木田、段(F)、高木、田村） 3勝

◎白組（西脇、谷垣、山口(F)、本地、本地(F)、富田、池田、成瀬） 7勝

個人順位(ゲーム勝率): 1位 本地(F)、2位 成瀬、3位 池田、4位

西脇以下略

Part 2 ダブルス決勝トーナメント 1位 成瀬・池上ペア 2位 西脇・富田ペア



(幹事からのお誘い)

今回は西は明石から東は滋賀から参加いただき、若い参加者も増え、初回よりさらに交流の輪が広がったと実感しています。次回は11月頃を目処に再び神戸で開催したいと考えております。さらに新しいメンバーが参加してもらえるようにコートも3、4面確保したいと思います。皆さんお誘いあわせのうえ、お申込下さい。

1. 未来投資に向けた官民対話（第5回）

平成28年4月12日

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/index.html

第四次産業革命・イノベーション

資料1：出席者名簿

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou1.pdf

資料2：橋本氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou2.pdf

資料3：関山氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou3.pdf

資料4：金丸氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou4.pdf

資料5：上野氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou5.pdf

資料6：加藤氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou6.pdf

資料7：五神氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou7.pdf

資料8：榊原氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou8.pdf

資料9：三村氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou9.pdf

資料10：小林氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou10.pdf

2. 産業構造審議会 製造産業分科会（第4回）

平成28年3月28日

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/004_haifu.html

製造業をめぐる現状と課題への対応

資料1 製造業をめぐる現状と課題への対応

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_01_00.pdf

3. 情報通信技術が変える経済社会

2016年3月23日

日本経済研究センタ

“第4次産業革命”への備えを

ICT戦略と国家戦略・経営戦略の深い統合を

<http://www.jcer.or.jp/policy/concept2050.html>

http://www.jcer.or.jp/policy/pdf/160323_policy1.pdf

2015年2月に公表した「経済社会の革命的变化への岐路に立つ日本—技術進歩と向き合う改革への覚悟を—」に続き、研究会での議論を取りまとめた。ICT（情報通信技術）を製品・サービスの開発・提供、競争力向上の中核としてフル活用するため、ICT戦略と企業戦略、そしてICT戦略と国家戦略を統合することが「第4次産業革命」を乗り切る上で不可欠だ。

4. グローバル・トレンド（未来洞察データ集） 平成28年3月30日 中部経済産業局
http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/global_trends.html

「グローバル・トレンド（未来洞察データ集）」は、エネルギートレンド、資源トレンド、経済トレンド、業界動向（自動車市場、航空機市場）などについて、各機関が公表している予測データを取りまとめております。企業の皆様の時流に先んじた（環境変化を先取りする）経営戦略立案に幅広くご活用いただければ幸いです。

グローバル・トレンド（未来洞察データ集）

http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/data/global_trends_2016.pdf

5. Global Tech Trends 2016

デロイトトーマツ

Innovating in the digital era

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html>

テクノロジーに大きな変革をもたらす事象への理解を深めるため、デロイトでは毎年Global Tech Trendsを発行しております。今回で7回目となるTech Trends 2016は、今後1年半～2年の間にビジネスに大きなインパクトを与えるだろう8つのトレンドに焦点をあて、また各トレンドが計画・設計・導入される段階において企業内統制の立場からサイバーリスクをどう捉えておくべきか考察しております。

Tech Trends 2016 日本語版

<http://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/jp/Documents/technology/tsa/jp-tsa-tech-trends-2016.pdf>

・IT導入スピードの最適化とは

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#2>

・実用段階にきた拡張現実とバーチャルリアリティ

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#3>

・Internet of Thingsが価値を生むまで

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#4>

・基幹システム再創造

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#5>

・Autonomic platforms（自律型プラットフォーム）

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#6>

・ブロックチェーン：特定の権威に依らない「トラスト」の確立

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#7>

・アナリティクスの「産業化」

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#8>

・技術の飛躍的進歩がもたらす社会へのインパクト

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#9>

・(動画) Tech Trends 2016: Innovating in the Digital Era

<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#10>

6. 2020年までのITロードマップをとりまとめ 2016.03.17 野村総研

～ビジネスや社会へ影響を及ぼす重要技術は、ディープラーニングによる人工知能の進展がカギとなる～

http://www.nri.com/jp/news/2016/160317_1.aspx

これからのビジネスや社会に広く普及し、さまざまな影響を及ぼすと考えられる重要技術が、2020年までにどのように進展し実用化されるかを予測した「ITロードマップ」※1をとりまとめました。今回、重要技術として取り上げたのは、「人工知能(AI)」、「IoT(Internet of Things)」、「ウェアラブルコンピューティング」、「カスタマー・エクスペリエンス」、「APIエコノミー」、「FinTech」、「リテールTech」、「デジタル・マーケティング」の8つです。

7. 産業競争力会議 平成28年3月31日

テーマ：データ駆動型経済、未来投資、フィンテック

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou.html>

民間議員意見、関係省庁による現状施策説明

資料1：小林主査提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou1.pdf>

資料2：三木谷議員提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou2.pdf>

資料3：上田祐司氏提出資料（一社シェアリングエコノミー協会代表理事）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou3.pdf>

資料4：根来龍之氏提出資料（早稲田大学ビジネススクール ディレクター・教授）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou4.pdf>

資料5：内閣官房 IT 総合戦略室提出資料（シェアリングエコノミー関係）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou5.pdf>

資料6：経済産業省提出資料（シェアリングエコノミー関係）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou6.pdf>

資料7：内閣官房 IT 総合戦略室提出資料（IT 原則への転換関係）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou7.pdf>

資料 8：内閣サイバーセキュリティセンター提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou8.pdf>

資料 9：経済産業省提出資料（サイバーセキュリティ関係）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou9.pdf>

資料 10：総務省提出資料（サイバーセキュリティ関係）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou10.pdf>

参考：第 27 回実行実現点検会合（平成 27 年 12 月 10 日）小林主査提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/sankou1.pdf>

資料 11：瀧俊雄氏（株）マネーフォワード 取締役 Fintech 研究所長）提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou11.pdf>

資料 12：金融庁提出資料（FinTech 関連施策について）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou12.pdf>

資料 13：経済産業省提出資料（Fintech（フィンテック）について）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou13.pdf>

資料 14：経済産業省提出資料（クレジットカード 産業におけるデータ利活用に向けて）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou14.pdf>

8. サイバーセキュリティ戦略本部 第 7 回 平成 28 年 3 月 31 日

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/index.html>

報道発表資料 http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07cs_press.pdf

サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針

http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/jinzai_kyoka_hoshin.pdf

重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第 3 次行動計画の見直しに向けたロードマップ

http://www.nisc.go.jp/active/infra/pdf/ciip_roadmap2016.pdf

議事次第

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07gijishidai.pdf>

資料 1 サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針（案）

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryoud01.pdf>

資料 2 重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第 3 次行動計画の見直しに向けたロードマップ

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryoud02.pdf>

資料 3 2016 年「サイバーセキュリティ月間」結果報告

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryoud03.pdf>

9. 平成 27 年度製造基盤技術実態等調査

平成 28 年 3 月 日立製作所

製造分野における IoT システムのセキュリティ対策に関する調査事業

http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2016fy/000057.pdf

IoT 実装の有力な分野として検討が進められている製造分野を対象に、ハード

ウェア、ソフトウェア、データ、オペレータ等の IoT システムを構成する要素ごとに考えられるセキュリティリスクの洗い出しと具体的な対応策について、検討・整理する。

10. AI の「人間超え」、その時トップ囲碁棋士は

2016 年 3 月 19 日

高尾紳路九段が見たシンギュラリティの風景

日経ビジネス Online

<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/110879/031600283/>

年 3 月、世界トッププレイヤーの 1 人、韓国の李世ドル（イ・セドル）九段が五番勝負でグーグル傘下企業のディープマインドが開発した人工知能（AI）「アルファ碁」に敗れたというニュースが世界中を駆け巡った。チェス、将棋など人類の知性の象徴とされてきたゲームで次々に AI による「人間超え」が起きてきたが、「早くて 10 年後」とされてきた囲碁がここまで早く陥落することを予想する人はいなかった。AI が人間を超える、シンギュラリティ（技術的特異点）。遅かれ早かれ、我々全員が直面する現実だ。正に今、囲碁棋士はその現実に向き合っている。そこには、どのような光景が広がっているのか。名人、本因坊など 14 回のタイトル獲得経験を持つ日本囲碁界のトップ棋士の 1 人、高尾紳路九段が緊急寄稿した。

11. 人工知能が囲碁トップ棋士に勝つ時代に考える 「知的職業」の未来

2016 年 3 月 16 日 DIAMOND Online 山崎元

<http://diamond.jp/articles/-/87970>

韓国出身で近年の囲碁世界チャンピオンだったイ・セドル九段が、グーグルの系列会社で作った AlphaGo というプログラムと戦って敗れた。5 番勝負で最初に 3 連敗したのだ。

12. ロボットは「同僚」になれるのか

2016 年 3 月 17 日 日経ビジネス Online

工場、介護、保育、接客…24 年後の現場は？

<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/221102/031400189/>

人口減と高齢化に歯止めがかからない日本。現在の経済活動を維持するには人手が足りなくなる。日経ビジネス 3 月 7 日号スペシャルリポート「自動化専門家が断言 移民よりまずはロボット」でも取り上げたが、2040 年には 586 万人分の労働力が不足すると予測されている。

13. 中国産業用ロボットの行方

2016.03.07 三井物産戦略研

http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d_r160307i_fujishiro.html

14. 「ユーザー企業の IT 活用実態調査（2015 年）」を実施

2016.03.16 野村総研

～国内企業の「デジタル化」における課題は「組織の壁」～

http://www.nri.com/jp/news/2016/160316_1.aspx

、2015 年 12 月に、国内企業における IT 活用の実態を把握するためのアンケート調査を大手企業の CIO（最高情報責任者）またはそれに準じる役職者を対象に実施し、全業種にわたって 501 社から回答を得ました。NRI では 2003 年から本調査を毎年行っており、今回で 13 回目となります。 今回の調査では、これまでの IT 投資などの定点観測項目に、企業の「デジタル化 *1」についての項目を新たに加えました。調査結果からは、国内企業が「デジタル化」を推進する上で必要としていることは、全社的な活用方針・活用戦略の策定、情報システム部門と事業部門とのコミュニケーションや協業の促進など、「組織の壁」を越える施策であることが明らかとなりました。 主な調査結果は次のとおりです。

15．情報通信業基本調査報告書 （平成 26 年度実績）

平成 28 年 3 月 総務省情報通信国際戦略局 経済産業省大臣官房調査統計グループ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/joho/result-2/h27/h27kakugaiyo.pdf>

16．総合科学技術・イノベーション会議 システム基盤技術検討会

（第 4 回）平成 28 年 3 月 2 日

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/haifu_system_04.html

サイバーセキュリティの取組について、A I P の取組について、標準化の取組について、共通基盤について

資料 1 前回までの有識者ご意見抜粋

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo1.pdf>

資料 2 「安全な I o T システムの創出」

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-1.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-2.pdf>

資料 3 「人工知能ビッグデータ I o T サイバーセキュリティ

統合プロジェクトに関する文部科学省の取組状況について」

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo3.pdf>

資料 4 「社会システムの国際標準化について」

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-1.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-2.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-3.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-4.pdf>

資料 5-1 ユースケースを通じた共通基盤の議論について

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-1.pdf>

資料 5-2 ユースケースの共通基盤項目検討結果一覧

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-2.pdf>

資料 5-3 有識者からのユースケース集計結果（提案価値を基準に再集計）

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-3.pdf>

資料 6 システム基盤技術検討会論点整理（案）

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo6.pdf>

資料 7 今後の予定

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo7.pdf>

参考資料

参考資料 1 システム基盤技術検討会（第 3 回）議事録（案）

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/sanko1.pdf>